美術科学習指導案（高等学校1年生）

授業者　高地秀明

1．題材　「自画像のデッサン」

本題材は学習指導要領「A　表現　ア」の「ものの見方や考え方を深める」を指導する。

2．題材設定の理由

⑴ 教材観

①デッサンは基礎的な造形表現力をつけるために欠くことのできない題材である。対象をしっかりと観察し、描写力や表現力の向上を図ると共に、根気強く努力し制作に取り組む姿勢を養いたい。また、デッサンにおいても自分の気持ちや感情が表現できることが大切であり、気持ちを込めて表現できるよう努力させるようにしたい。

②自画像デッサンを通して、自己を見つめ、自己と対話しながら、外見だけでなく自己の内面の表現を追求し、自分の特徴や心の動きや表情、生命感などを表現させることが自己表現において重要な課題である。

③人体の骨格、比例(プロポーション)、量感、動勢などの造形要素についても理解させ、自分の目をとおしてしっかりとものを見る力、感じ取り表現する力を培いたい。

⑵ 生徒観･指導観

描くことによってはじめて見えてくるものがある。ものを見ることは何かを発見することであり、描く行為は対象を知り、心に深く刻み込み、それを自らの感性を通して何らかの形（表現）に昇華することである。これは人間の持つ重要な能力の一つであると考える。

ところが、近年の中学生を見ると、明らかに描画に慣れ親しんでいない描画能力の低い生徒がいる。描画能力が低いとは、いわゆる“うまい・へた”ではなく、その経験の少なさである。おそらく、年齢のそれぞれの発達段階において描画の機会を適切に与えられなかったのではないかと考えられる。

描くことは、自然や社会の事象について認識し表現しようとする一つの方法であり、学校教育において、言語や数理を学習するのと同等に意味のある学びであり、人間教育においても欠くことのできないテーマであると考える。

3．学習の目標

①自分自身をよく見つめて「自己とは何か」を自分に問いかけながら、外見だけでなく内面を捉えて描く。

②自分にふさわしいポーズを決め、全体の比例や、部分と全体の割合などに注意しながら、自分の特徴や表情を捉えて描く。

③鉛筆や色鉛筆などの素描材料の使用法を学習し､筆触や色彩の効果について工夫しながら、自分らしい表現を探究する。

④完成した作品をもとに感想を述べ合い、友人相互の心の交流を図る。

4．題材の評価基準

観点	観点Ⅰ 美術への関心・意欲・態度	観点Ⅱ 発想や構想の能力	観点Ⅲ 創造的な技能	観点Ⅳ 鑑賞の能力
題材の評価規準	デッサンの意義や表現の楽しさを理解し、創意工夫しながら取り組んでいこうとする。	対象を感性や想像力を深く働かせて、豊かな表現を目指していこうとする。	様々な造形要素を把握しながら、描画材料を生かして創造的に表現する。	自他の作品のよさや美しさ、表現の工夫などを味わったり、批評し合ったりする。
学習活動における具体の評価規準	①自分らしいデッサンの表現を創意工夫している。 ②目標や自らの課題意識主題をもってよりよい表現を目指している。	①自己を見つめ、自分の内面を感じ取りながら、表現に取り組んでいる。 ②自分にふさわしいポーズを決め､全体の比例や、部分と全体の割合、バランス、変化と統一などを考えて創造的な構成を工夫している。	①形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、自分なりの方法でスケッチをする。 ②意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けている。	①いろいろな見方や感じ方や表現の仕方、知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わっている。

5．指導計画（全4時間）

第１時　教科書などの図版をもとにデッサン作品を鑑賞し、数枚のクロッキーを描くことによってデッサンの意義や表現の楽しさを理解させる。本時

第２時　構図やプロポーションなどのものの見方、とらえ方について留意しながら描かせる。

第３時　自分の特徴や光と影、明暗、濃淡なども意識的に観察させ、表現を深めさせる。

第４時　鑑賞とまとめ

6．本時の指導計画（1/4）

(1) 本時の目標

①描く姿勢を正し、デッサンする基本的な心構えを身につけさせる。

②人体のプロポーションや各部のつながりについて理解させ、自然な動きの感じられる人物像を表現させる。

③自己を見つめ、自己と対話しながら、外見だけでなく内面にも目を向け、自画像デッサンの意義や表現の楽しさを理解させる。

(2) 本時の準備物

＜生徒＞教科書、鉛筆、練りゴム、スケッチブック

＜教師＞鏡、教科書、図版資料、ＯＨＣ

(3) 指導計画

時間	学習活動・指導過程	指導上の留意点	評価基準・方法
導入 ５分	本時の学習課題の確認 １．題材のねらいと制作プロセスを理解する。 ２.自画像表現の事例を鑑賞する。 画用紙･鉛筆の配布、鏡の準備	○自画像デッサンの意義や表現の楽しさを理解させる。 ○レオナルド･ダ･ビンチ、レンブラント、ゴッホ等の図版や生徒作品を提示し、作品に込められた多様な個性について感じ取らせる。	
展開 35 分	制作 ３．クロッキーⅠ（５分） 自分にふさわしいポーズ、構図を決め、自由に描く。 ４．クロッキーⅡ（１０分） 頭や体の角度、顔や目、鼻、口などの部分と全体の比例を見ながら描く。 ５．デッサン（２０分） 光と影、濃淡なども意識しながら、自分なりの表現効果を意図した多様な工夫を試みさせる。	○最初は、人物の全体感を把握しながら、大掴みにのびのびと描かせる。 ○構図の取り方、プロポーションに留意させる。 ○鉛筆の線の粗密で濃淡を作り、明暗の段階を捉え表現させる。 ○色鉛筆の筆触や色彩の混色、塗り重ねなどによって多様な表現の可能性を探究させる。 ○個々の進行状況を把握し、生徒の制作意図に沿った適切な支援を行う。	観点Ⅰ①について観察とクロッキーによって評価する。 観点Ⅲ②について観察とデッサンによって評価する。
まとめ 10 分	鑑賞 ６．ＯＨＣで本時の作品を鑑賞したり、自分の感想を発表する。 ７．自己評価シートを記入する。 後片付け	○自他の作品を鑑賞し、制作についての反省と今後の課題を考えさせる。 ○本時の３枚のデッサンの変化や進展について振り返り、自己評価させる。	観点Ⅳについて観察と自己評価シートによって評価する。